

もり エコ森林通信 vol.2

～エコニクスの森林の植物～



北海道らしい森を保存する、不伐の森

日本の中でも自然の森が残されているイメージがある北海道。しかし調査で道内の山を歩いていると、人里近くの山には、人の手が入らず、幹の太い木々が生える自然の森はなかなか残っていません。今でも人に管理されている森や、人為的影響を受けた後、もう一度自然の姿に向けて成長途中、という森が大半であることに気付かされます。

エコニクスの森林は、どうでしょうか。この森は札幌市街地から1時間半、標高約600～730mの場所に位置します。主な樹木は、広葉樹のダケカンバ、ミズナラ、針葉樹のトドマツで、幹の直径は60～80cmと太いものが多くみられ、北海道の自然林に比較的近い姿の針広混交林が保存されていると言えるでしょう。



エコニクスの森林は、ダケカンバ、ミズナラ、トドマツなどの両手で抱えきれないほど太くて立派な木が存在する針広混交林になっています。



- ① ミヤマアキノキリンソウなど、8月には秋を思わせる花も咲き始めていました
- ② 夏の花が終わりかけの8月、サラシナショウマの白い花穂が目を引きました
- ③ ウメガサソウ、ハナヒリノキ、オオバスノキなどのツツジ科の低木もちらほら
- ④ 森の林床には、ナンブソウが群生

多様性に富むエコニクスの森林の植物たち

北海道では一般的に、土が豊富で安定した落葉広葉樹林の林床では、ササが地面一帯を覆います。しかし背の高いササが繁茂すると、背が低い他の植物はなかなか森の中で成長することができません。

エコニクスの森林も、林道から一見するとササが斜面から尾根にかけて広がっているようです。しかし、中へ入ってゆくと、ササの数はそれほど多くないことが分かります。代わりに、斜面にはオオカメノキ、ツノハシバミ、オガラバナ、ハナヒリノキ、オオバスノキなどの低木、さらに尾根の平らなところに出ると、ナンブソウ、イチヤクソウ、ウメガサソウ、ミヤマアキノキリンソウといった、山地帯～亜高山帯の多様な植物を観察できます。

今回は植物のお話でしたが、次号はどんなお話になるか、ご期待ください。